



標津手打ちそば愛好会

川北・北標津・古多糠・伊茶仁・茶志骨の各高齢者学級及びいきいきサロンでのそば打ち教室やそばの提供、あすばる主催のそば打ち教室、ロシア人のそば打ち交流体験、縄文まつり、文化祭などが主な活動です。

会 長 古瀬 良蔵
 会 員 11名(うち5人が二段位取得)
 設 立 平成12年12月
 月1回例会

しべっ 議会だより

12月定例会

第145号

平成25年2月1日

行政報告	久留米大学から来年度以降も医師派遣…	2～4
一般質問	金澤町長の3選出馬の意向は…	5～7
	河川増水による流木被害対策は 乳蕨橋改修工事と道路拡幅工事について	
決算審査報告	……………	8～9

久留米大学から 来年度以降も医師派遣

金澤瑛町長の行政報告

久留米大学医学 部への訪問結果

今年も11月26日から28日の旅程で、私と田中議長・大野病院院長・村山事務次長の4人で、医師を派遣いただいている久留米大学医学部の内科・外科の主任教授を訪問し、引き続き本町への医師派遣のお願いをしてきた。

この結果昨年10月1日から交代となった内科学講座の主任教授、並びに外科学講座の主任教授には、本町への医師派遣について、引き続きご理解をいただき、内科・外科共に、来年度以降も派遣いただけることになった。

標津病院の医療体制の充実及び強化に向けて、今後いっそうの努力をしていく。

定住促進団地・ 美郷団地が完売

人口増加対策の一環として、平成18から「3年以内に住宅を建て町民となったら、土地は無償で分譲」を目玉に、28区画を造成し全国募集していた美郷団地は、今年10月に残っていた2区画の分譲が決定し、完売となった。28区画の入居予定者

を含めた世帯の内容は、道外10世帯、道内が同じく10世帯、町民世帯が8世帯となり、団地内世帯人口は74人の予定。建築業者は、予定を含めて15件が地元業者に確定するなど、50%以上を確保しており、人口増加や地域経済波及のほか、多様な人材が移住されるなど、地域活性化全般に貢献したものと受け止めている



完売した美郷団地

太陽光発電所 建設の進捗状況

本事業はシャープ株式会社と基本合意をしたためであるが、建設と運営の際の事業主体は、当初計画から別会社を設立して行われることになっていた。このための会社として11月8日に「合同会社標津ソーラーエナジー」が設立された。これにともない、昨年12月18日に土地賃貸契約をした。事業量は、当初8MWであったが、用地の精査の結果10MW（キロワット）に換算して一万キロワット」の発電能力に変更された。事業着手は、当初、本年11月を見込んでいたが、シャープとして当町の事業が北海道での今後の事業展開の基礎になることから、この冬に建設予定地を使ってテストモジュールによる試験発電を実施し、路盤の強度や積雪への対応などのデータを得て詳細な事



稚内市の太陽光発電施設

業計画を樹立することになったことから、敷地造成は来年の5月着手に延期された。町としては大きな期待の中で、動向を見守る。

基幹産業の状況

酪農業

香先からの長雨の影響と6月中旬の天候不順により1番草は農家によって1週間から10日ほど遅れたものの、その後の天候の回復により、サイレージ及び乾燥草は、■・栄養価とも平年並みとなった。また、2番草も遅れがでたが、9月に入り安定した天候にめぐまれ、収量、栄養価とも平年よりやや良となった。し

かし堆肥散布は10月から11月にかけて、当地方の総雨量が対前年同期の20%増、日照時間も30%減となる記録的な天候不順となり、農作業が大幅に遅れた。生乳産量は、本年4月から11月末までの8ヶ月間における前年同期対比では15%増の5万8千8百トン、販売額は、

去年同期の平均乳価より25円ほど高い84円前後で推移したことから、前年対比で約43%増となる49億6千万円となった。生

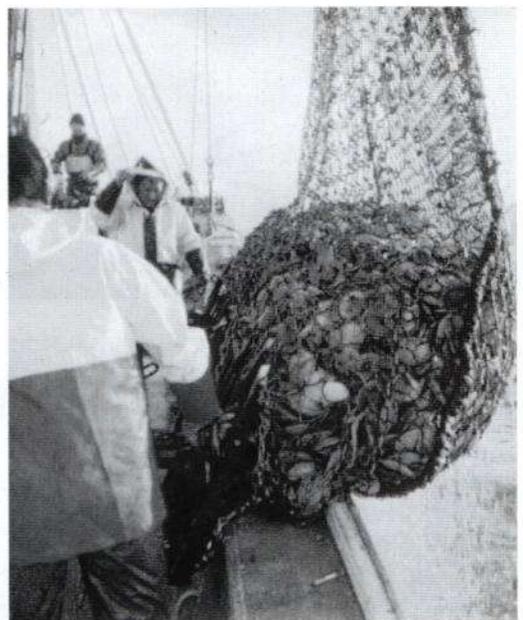


乳販売、個体販売、その他牧草等の販売額を合計すると、前年対比2%増となる58億9千5百万円となっている。しかし輸入家畜飼料の価格は上昇傾向が続いており、TTP問題と相まって、今後の酪農経営に与える影響が心配されている。

水産業

今年の秋サケの水揚げ量は前年対比で54%増の約7千7百20トン金額で

約7千7百20トン金額でも44%増の約33億8千万円と、不漁が続いた過去4年と比較するとますますの結果となったが、過去10年間の平均水揚げ量と比較すると、7割程度までしか回復しておらず、依然として厳しい漁業経営を強いられている。また、全道の水揚げ尾数は、前年度対比で104%の3千8百80万尾となったものの、今年の1尾当たりの平均重量は27kgで昨年に比較し20g、一昨年と比



較しても、400gほど減少しており、小型化による来年以降の漁獲量への影響が心配される。

本町の漁業生産額の7割を超える秋サケは、地域経済を潤す最も重要な資源であり、管内増協が鋭意増殖事業に取り組んでいる。更に今年2月に「標津秋サケ自然産卵調査協議会」を立ち上げ、標準漁協、定置漁業部会、管内増協、標津町が連携し40回以上にわたり河川での産卵調査を実施した。ホタテ漁は12月13日現在で昨年を10%上回る4千7百50トンとなった。水

場金額は、昨年の平均単価には及ばず、対前年度同期、約46%減となる9億3千3百万円となった。水産加工業は、今年は厳しい中で加工原料の確保ができたものの、秋サケ加工原料は全道的品薄感から高値傾向が続いており、長期にわたり厳しい経営を強いられている。

本町の太宗魚種の秋サケの不漁は水産加工業のみならず運送業や商工業などの関連産業にも大きく影響を及ぼすことから、今後も資源回復による加工原料の増大・安定を期待する。

各委員会の閉会中の 継続調査

議会運営

- ①本会議の会期日程等会議の運営に関して
- ②議会活性化対策に関して

総務・経済

- ①産業環境防災林景観林に関して
- ②エゾシカの食害対策に関して
- ③サーモンパークの活性化対策に関して
- ④秋鮭資源減少対策に関して
- ⑤河川災害対策に関して

文教福祉建設

- ①標津川自然復元川づくり計画に関して
- ②福祉行政施策に関して
(介護保険・高額医療費)

一般会計補正予算(主なもの)

単位 千円

項目	金額	内容
公共施設協働基金(リフレッシュ)積立金	300,000	施設営繕のための基金積立金
ふるさと応援基金積立金	2,391	ふるさと応援寄附40件の積立(12月6日現在2,401)
古多糠望洋台牧場施設整備補助金	11,706	望洋台牧場バラ線張替え工事(うち道補助8,500)
流木処理対策事業	2,050	暴風・大雨・洪水による標津漁港、薫別漁港及び海岸の流木処理助成
河川流木処理対策事業	918	忠類川、植別川の流木処理経費
サーモンパーク特別会計繰出金	2,678	サーモン科学館展望塔外壁等改修工事実施設計委託料
河川整備緊急特別対策事業	4,600	暴風・大雨による河川被害の修復、防護(崎無異川・古多糠川・薫別川)

人事異動による補正、事業費確定による補正は記載していない

文教

福祉

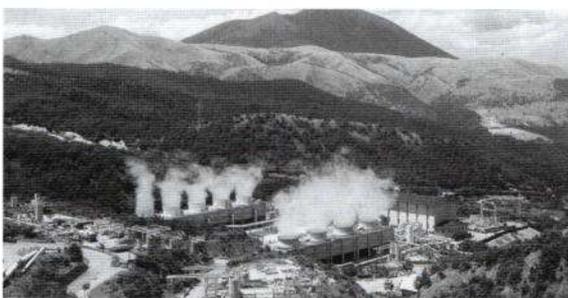
建設

道外で視察

当委員会では、11月18〜21日の日程で道外視察を実施しました。地熱発電所として国内最大発電出力11万kwの九州電力八丁原(はつちようばる)発電所(大分県九重町)と国内最大級1万kw(10メガワット)の発電出力のメカソーラー発電所、関西電力堺太陽光発電所

(大阪府堺市)を視察見学して来ました。地球内部に潜在する熱を直接エネルギー源として利用する地熱発電、太陽光エネルギーを電気に変換する太陽光発電、両者共に、再生可能な自然エネルギー資源を利用するクリーンエネルギーであり、自然の恵みを未来につなぐ「次世代エネルギーパーク」を体験しました。

九州電力八丁原発電所



関西電力堺太陽光発電所



一般質問

Q

&

A

3人の議員が5項目にわたり町長に質問しました。

金澤町長の 3選出馬の意向は...

愛する郷土 標津町の為に...



木下孝議員

Q 巷間、町民有志の多くの方々が、金澤町長の3選出馬に関心を持たれている。任期残す所、半年という今日、時期遅きに失した感は否めないが健康問題を最重要課題として捕え、その面で支障がないのであれば、町民の付託に答え、議会本会議のこの公式の場において、力強い意欲・意志のもと、3選出馬を表明すべくと考える所であるが本意を質(た)したい。
A 3期目に向けて、身の振り方を問われたわけであるが、正に身に余る思いである。馬齢を重ね65歳になったが、健康面に關しては、主治医の標津病院長の御墨付きで、

今後とも、町長としての任務遂行上、支障なしとの診断結果を得ている。来年6月の任期満了にともなう町長選挙に向けて、7年半の自らの町政を総括し、熟慮に熟慮を重ねた道半ばの政策課題が山積みする現状において、これらを完遂する事が、私の任務であると存する。町民の皆様、議員各位、町職員の御理解を得られるのであれば、この掛け替えのない、愛する郷土標津町の為に、三度(みたび)町政を担わせて頂きたい。

3期目続投に 向けて: 行政課題5点 に関して

Q 町長は、町政施策執行上の原点を「町民目線に立脚する事」とし、又施策実践計画に当たっては

標津・金沢町長が3選出馬表明

「引き続き町民目線で」



【標津】19日の定例町議会で、来年6月の任期満了を迎える町長、町民目線に立ち町政運営をしていきたいと意欲を述べた。金沢町長は一般質問で、町民目線に立ち町政運営をしていきたいと意欲を述べた。金沢町長は一般質問で、町民目線に立ち町政運営をしていきたいと意欲を述べた。

北海道新聞 平成24年12月20日

「選択と集中」を掲げて2期8年間、町政の執行に邁進して来たところである。金澤町政3期目を続投するに当たって、重要な行政課題5点に關して今後の方向性等を併せて答弁を願う。

①標津病院に關して、現在の院長、副院長を含む医師4人体制が、次期金澤町政に於いても安定継続となりうるのか
②標津町ふるさと新生プラン『ステップⅡ』の着実な実践と施策実施のスピードアップが望まれるが、その展望は
③人口の減少対策の迅速化が早急な課題であるが基幹産業を守る為にも総合的花嫁対策の強力なる展開が要求されるが、
④町経済活性化の為の、町内業者雇用体制に見合う公共事業費が望まれるが、

は『ステップⅡ』の根幹をなすものであり、人口規模経済効果・集積効果へと通じるものである。しかしながら、花嫁対策に關しては、潜在化している面があり、いかにアンテナを張り巡らせて情報を取得し、提供していくかが課題となる。

⑤公共事業費の平常化に關しては、従来同様に、国や道に対し、地域提案型の公共事業費の投下を更なる要求をし、土木建設業に關して、3億円規模を確保して行きたい。

⑥町づくりに於いて、地域力・町民力・職員力の三力の輪を説いているが御指摘の行政組織力の低下に關しては、誠に遺憾の念に堪えない。職員らの研修に關しては、自ら学ぶスタイルを堅持し、更なる切磋琢磨を求めて行く。

3期目に向けて、従前同様に、町民目線に立ち町政運営を継続すると共に、一皮剥けて、一歩前に入る町政を心掛けて行きたい。

河川増水による流木被害深刻 道の管理責任重大

今後は道の責任で処理(道回答)

忠類川・植別川



小川悠治議員

●河川流木処理

Q 集中豪雨・長雨による河川洪水で発生する流木被害は深刻な問題である。魚網等の壊滅的破壊の恐れがあり、特に11月の洪水で河川に散乱した大量の流木が放置されたままでは、中規模増水でも海域に流れ、決定的被害となりかねない。その影響は漁業者のみならず町内産業から福祉行政まで即座に現れる。

道は忠類川・植別川など2級河川の管理者であるにもかかわらず、流木



深刻な河川増水による流木被害

は災害に該当せず、人命財産に直接に影響しないと対応に腰が重い。しかし、河川に散在する流木が今後の降雨や雪解け増水で海域に流出し、二次被害が発生した場合、道の不適切管理による人災であり、道が責任を負うべきである。

A 5月の雪解け水と低気圧による大増水や11月

の記録的降雨による洪水で河川から大量の流木や散乱木が一気に下流や海域に流れる異常事態であった。すでに、今後の増水による二次被害の未然防止など道建設管理部対策の検討を強く要望してきた。今までは住宅が少なく生命財産の危険性も少ないことから、費用対効果の関係で対策が後回しになっていたが、今後、流木処理については道が行うとの回答を得たので早急なる処理を協議している。なお、町管理の河川については直ちに流木処理している。

●海域・海岸線流木処理

Q 河川管理者から漁業者にいたるまで連携した中での将来的対策が必要であり、町の先導的対応が極めて重要と考えるが見解を伺いたい。

A 海岸線の流木処理に

については、迅速な処理のために、道関連部局、町、漁協、増協で流木被害対策連絡会議の開催や、漁業者による処理の協力体制・費用負担など、町として仕組み作りに積極的に関わっていく。

河川環境「三者会議」を評価 酪農・漁業の協力進む

酪農・漁業共生のため更なる知恵を

Q 平成15年より継続して河川環境を取り上げてきた。22年には稚魚が全滅しかねない事故が発生した。その後、町の主導により、農協・漁協の『産業環境に関する3者会議』が設立された。当初の意見相違を乗り越えて、相互理解が進み河川環境改善に取り組んでいることを評価したい。標津町の支えは酪農・漁業の共生が原点となる。次期町政においても更なる推進のための施策を望みたい。

A 協議会設立について、当初、一方から強い難色を示されていた。しかし、町が生きていくには酪農と漁業が共生していかねければならないとの理解のもと、両者が誠意を持って共通認識を深め、河川環境改善に取り組んでいる。古川(標津川)の腐泥対策も解決に進んでいる。今後の河川環境のステップアップに知恵を絞りたい。

道道一一四五号 薫別・川北線 乳薫橋の改修工事と 道路拡幅工事について

冬期間の交通アクセス 地区住民の避難道路 として重要



南 憲 治議員

Q 道道一一四五号薫別川北線、乳薫橋の改修工事の目的と概要について伺いたい。

関連して一部拡幅、舗装済みの道々の今後の工事予定と、通年通行となった場合、次の点について町の考えを伺いたい。

- ・道路管理に対する町としての考え方は
- ・工事中の濁水発生防止については
- ・融雪剤散布等によるさけ稚魚への影響について

・本道道の完成後の交通

量の増加に伴いごみの不法投棄等によりさけ稚魚飼育への影響が懸念されるがその対策は

A 道道一一四五号は、

羅臼町から各方面へ、及び冬期間の知床峠通行止めによる、各方面への交通アクセスとして、また本町酪農業の生産活動にとって重要である。更に東日本大震災以降、国道三三五号が津波警報発令などにより、長時間通行止めとなった場合に、地域住民の避難道路として重要である。

しかし本道路は乳薫橋を含め道路幅員が非常に狭く、急カーブ、急道路勾配で、大型化している農作業車輛の通行等を含め、特に冬期間通行止めとなること大きなマイ

ナス要素であるため、町では乳薫橋を含んだ未改良区間について早期完成と、通年通行を道に要望してきた。

事業主体である北海道釧路建設管理部中標津出張所の説明では、新しい橋は現在の橋から薫別川下流方向に約30m離れた位置に建設予定で、橋長は31.6m長くなり、橋の高さは薫別側で6.9m、古多糠側で4.2m高くなる。幅員は現在の5.8mから17m拡幅され片側3.75mの両側2車線となる予定。乳薫橋に接続する道路は、薫別側については現



現在の乳薫橋

在道路改良工事が終了している地点から乳薫橋方向に約180m直線となり、現在牧草地となっている箇所を左カーブの下り勾配で現道最大10%の勾配が6%となる。

道路幅員は一般的な道々規格である車線部が二車線で5.5mの予定。古多糠側については、橋から47mの地点で現道と擦りつけとなる。

事業の予定では平成28年度には全面開通の計画だが平成24年では予算化が難しく、来年度も予算化の見通しが立っていない。

北海道としては予算化され次第直ちに事業着手することに変更はないとの答えである。



尚工事完成後は通年開通となる。

道々の管理主体は北海道だが町に關係する事があれば当然関わっていかなければならぬ。

心化場へは新たな道道と接続する取り付け道路を設置する。

工事に伴い発生する濁水については、沈砂地等を設け、河川に流す際は、水質検査を行うなど万全を期する。

融雪剤がサケの稚魚に及ぼす影響については知見が少なく、不明なことから、心化場付近の融雪剤の散布量や、排雪の際に心化場側に飛ばさないなど今後建設管理部と協議をすすめていく。

通年通行に伴い交通量が増加すると思われる。

道路や路肩、側溝などのごみがない状態を保つための不法投棄の抑止策を講じるため、通年通行が開始された後の状況により判断し、道路管理者の釧路建設管理部と協議のうえ対応を図る。

一般会計並びに特別会計決算10会計を認定

決算審査報告

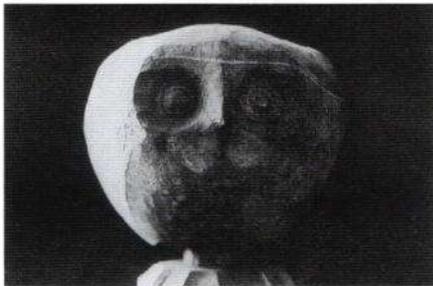
平成23年度決算審査特別委員会が、10月23日から26日までの4日間にわたり開催され、次の意見を付して認定されました。

審査意見

- ①人口減少対策の一環として、各産業団体の後継者対策（花嫁対策）の充実はかせないものであり、本人の意志・各団体の意向などの実態を把握し、人口の流出を防ぐ観点からも各団体との連携した取組みを強化するなど、総合的な対策を図ること。
- ②行政改革により著しく正職員が減少しており、それに伴い行政組織力の低下が見受けられることから、スキルアップ研修などの充実や、職場で職員を育てる環境体制の整備を行い、時代に即した
- 行政組織の構築とサービスの向上を図ること。
- ③町税収入については、景気の低迷により依然と厳しい状況にあるが、住民の公平負担の原則から滞納者に合った適切な収納業務に臨むべきであり、特に悪質者に対しては、強行措置を取るなどの徹底した対策・対応を図ること。
- ④サーモンパークの施設のあり方については、平成25年から指定管理者へ移行することになっていくが、町のシンポル的な施設であり、町づくりに対しての大切な部分でもあることから、公共サービスの充実を検討するなど今後継続して集客対策を図ること。
- ⑤「有害獣対策」については管内的にエソシカ駆除奨励金が低いことや猟友会員の高齢化により減少状況にあることから、

地元猟友会や4町と協議し、広域的な駆除について検討するなど、猟友会組織の存続を含めた対策・対応を図ること。

⑥決算審査特別委員会で配布された「主要施策の成果等報告書」には、事業ことの概要・予算執行実績が記載されているが、事業内容の検証や評価・改善点・今後の課題なども掲載し、施策の次年度以降の充実と効果的な事業執行を図ること。



コタンコロカムイ(一本柱) <米坂ヒデノリ氏>

審査結果

議案番号	事 件 名	審査結果
認定第1号	平成23年度標津町一般会計決算	認 定
認定第2号	平成23年度標津町国民健康保険特別会計（事業勘定）決算	認 定
認定第3号	平成23年度標津町国民健康保険特別会計（病院事業）決算	認 定
認定第4号	平成23年度標津町介護保険特別会計（事業勘定）決算	認 定
認定第5号	平成23年度標津町介護保険特別会計（サービス事業勘定）決算	認 定
認定第6号	平成23年度標津町後期高齢者医療特別会計決算	認 定
認定第7号	平成23年度標津町簡易水道特別会計決算	認 定
認定第8号	平成23年度町下水道特別会計決算	認 定
認定第9号	平成23年度標津町金山地域休養施設等特別会計決算	認 定
認定第10号	平成23年度標津町サーモンパーク特別会計決算	認 定

平成23年度 まちの決算書

一般
会計

歳入 60億5,068万円

歳出 58億 21万円

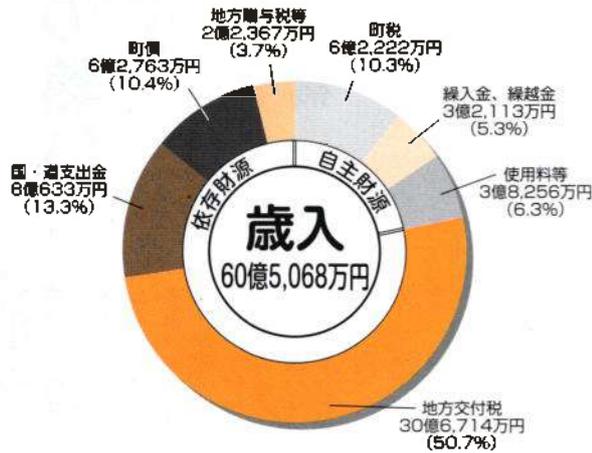
差引

2億5,047万円

歳出
対前年比
5.5%減

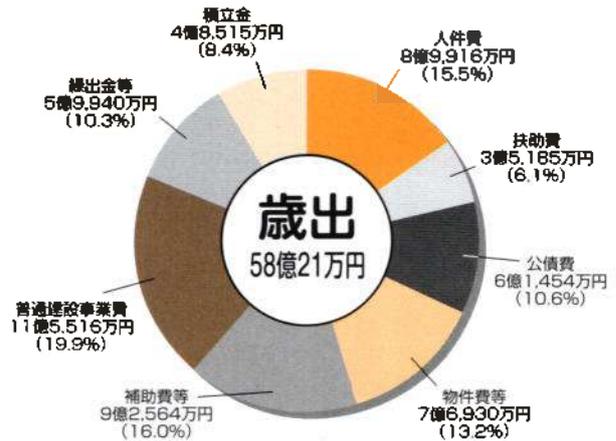
～町民力・地域力・行政力によるまちづくりの推進～

「財源別」内訳



※自主財源 13億2,591万円 (22.1%)
※依存財源 47億2,477万円 (77.9%)

「目的別」内訳



歳入合計	87億9,660万円	歳出合計	85億4,457万円
------	------------	------	------------

各会計 歳入・歳出決算総括表

会計区分		歳入	歳出	差引
一般会計		60億5,068万円	58億21万円	2億5,047万円
特別会計	国民健康保険特別会計(事業勘定)	9億1,037万円	8億8,985万円	2,052万円
	介護保険特別会計(事業勘定)	3億9,013万円	3億8,220万円	793万円
	介護保険特別会計(サービス事業勘定)	2,995万円	2,995万円	0円
	後期高齢者医療特別会計	1億320万円	1億298万円	22万円
	簡易水道特別会計	1億5,892万円	1億5,857万円	35万円
	下水道特別会計	3億1,648万円	3億1,648万円	0円
	金山地域休養施設等特別会計	1,582万円	1,582万円	0円
	サーモンパーク特別会計	9,891万円	9,891万円	0円
	特別会計合計	20億2,379万円	19億9,477万円	2,902万円
企業会計	国民健康保険特別会計(病院事業)	6億6,027万円	6億8,773万円	△2,746万円
	資本的収支	6,186万円	6,186万円	0円
	企業会計合計	7億2,213万円	7億4,959万円	△2,746万円
総計	87億9,660万円	85億4,457万円	2億5,203万円	

※各会計の端数処理により、合算と合計額が合わない場合があります。

稿寄

開校80年の熱い 思い「再生」

※北海道標準高等学校

事務長 市橋 宣

※昭和九年に公立青年学校
標準村立標準実践女学校と
して開校以来、標準村立北
海道標準実科高等女学校、
標準村立北海道標準高等女
学校、標準村立北海道標準
高等家政学校、北海道中標
津高等学校標準分校、標準
村立北海道標準高等学校の
改編・改称を経て昭和三十
八年道立に移管し現在の名
称となりました。

平成二十三年に本校に
赴任したのですが正直に
言いますと、「少々不安」
でした。私事になってし
まいますが、実は十五年
ほど前に羅臼高校の事務
主任として勤務しており、

その頃の標準高校とりわ
け生徒指導が大変な状況
を存じておりました。
しかし実際に生徒と接
してみると一抹の不安は
払拭されました。「学校
が再生」されていたので
す。生徒のごを見て、
「再生」を感じたか？大き
く二点あります。

まず一つ目は「あいさ
つ」と思っております。
他の学校でも「挨拶運動」
を展開し学校内において

は挨拶を交わすことが出
来る生徒は増えておりま
すが学校の内外を問わず
挨拶が出来る生徒達に出
会ったのは本校が始めて
と言っても過言ではあり
ません。

本年度本庁(北海道庁)
の出納局が本校の会計検
査に入った時のことなの
ですが、検査員が開口一
番に「学校の敷地内の内
外を問わず生徒の皆さん
が、笑顔で元気に挨拶を
してくれました。どのよ
うな指導をされているの
ですか？」とお褒めの言
葉を頂きました。

標準町内では極当たり
前のことで「たかが挨拶」
と思われる方も多いと思
うのですが、町外の来訪
者から見ると新鮮で高尚
なものに映るものです。
ちよつと大げさかもし
れませんが「笑顔で挨拶
は」標準町の観光戦略の
強力なアイテムになるの
ではないかと思うのです
が……。

2つ目は「部活動に取
り組む生徒の姿勢」です。
ご存じだと思いますが本
校は、陸上・吹奏楽(リ
コーダー)が全国、卓球・
自然科学が全道大会出場
の「常連校」です。これ
に本年度はバトミントン
が全道大会に出場するこ
とが出来ました。

同規模の学校でこれほ
どの実力のある学校は極
めて希で、選手(生徒)は
もちろんのことマネージ
ャー、顧問、保護者それ
に「スポーツのまち標準町」
を掲げる自治体が「丸」
となつて、日夜努力して
きた結果が実績となつて
表れたのだと思います
高校の適正配置計画の
中、学校の統廃合が推し
進められております。
(私の勤務してきた学校
のうち2校が廃校、1校
が統合)個々の学校が「生
き残り」をかけて試行錯
誤を重ねております。本
校も地域住民の皆様、標
津高等学校教育振興会や
町のご支援の中、減少傾
向だった在籍数も170
名を確保することが出来
ております。ただちよつ
とでも力を抜いてしま
うと一気に「間口減」「廃
校」と言う状況に転落し
かねない。と言うリスク
は絶えずつきまといつて
おります。

一〇年位前の事で申し
訳ありませんが、本校と
同じ二間口の学校が地
元に与える経済効果を
試算したことがありま
す(維持管理費と人件
費・生徒の就学経費)
当初で年間約1億2千
万と記憶しております。
現在は経理機構が変
わり維持管理経費は殆
ど根室教育局が所管し
ておりますが、職員や
生徒(保護者)が町に
「落とすお金」と言うの
はあまり変わらないと
思います。仮に五〇%
減としても数千円の効
果があると思つており
ます。

また、空知管内では
実際に高校が廃校とな
つてしまった町村のさ
びれた姿も目の当たり
にしております。
標準町が同じ様な事
にならない様職員一同
頑張つて参りますので、
本校の存続維持の為に
一層のご協力をお願い
申し上げます。

編集室



今年の年明はいかがで
しょうか。広報委員とし
て今年もまた町民の方々
にすこしでも読んでいた
だけの議会だよりを発行
していきます。どうぞよ
ろしくおねがいいたしま
す。昨年は標準町の四季
の変化もめまぐるしく変
わり暑さ寒さが激しく雨
や風ももっとも強い年で
した。本町の基幹産業で
ある漁業、酪農も一歩ま
ちがえればたいへんな災
害になっていました。今
年に入ってからインフル
エンザなど流行していま
す。体には気をつけてお
すこしくください。

(石橋 昌幸)

- | | |
|---------|-------|
| 議長 | 田中 幸幸 |
| 広報特別委員長 | |
| 委員長 | 大垣 勇 |
| 副委員長 | 南 憲治 |
| 委員 | 石橋 昌幸 |
| 委員 | 吉田 智 |